

■ごあいさつ

なぜ子どもは人形劇が好きなのでしょうか？

どうしてあんなに無心になって人形劇を楽しめるのでしょうか？

たぶん、人形にはもちろん、森の木々にも、動物たちにも、石ころにまでも命や心があると信じているからです。

あまりに早く、科学万能の世の中に放り出されてしまった子どもたちの心は、乾いています。

やさしさは、人間や万物が生命の営みを共有していると感じる気持ちの源です。

人形劇のもつ不思議な力は、きっと子どもたちを空想の世界で遊ばせることでしょう。

私たちは子どもたちをもう少し長く、ファンタジーの世界にとどめておいてあげたいと思っています。



ごめんね、シロ

丹後地方の民話『犬の碑の話』より

むかしむかし、山のとつぺんのお寺に、おこりんぼうの和尚さんと、やんちゃな小坊主さんと、シロという名のかしい白犬が暮らしていました。和尚さんは、シロをとともかわいがっていました。いねむりをしたり、忘れ物をしたり、お経のけいこをサボったり、失敗してばかりの小坊主さんは、いつも和尚さんにガミガミ怒られていました。

ある日のこと、和尚さんは小坊主さんを選んで、庄屋さんへ手紙を届けるように言おうとしましたが、思い直してシロに頼むことにしました。大事な手紙だから、返事をもらって、夕方の鐘が六つ鳴るまでに帰って来るように和尚さんが言いつけると、シロはワンと鳴いて、元気よく出かけました。

それを物かげで見ていた小坊主さんは悔しくてたまりません。「チエ、和尚さんったら、いつもシロばかりかわいがって、おいらにはガミガミお説教ばかり。悔しいなあ…、そうだ、ちよつとイタズラをしてやろう。」と小坊主さんは軽い気持ちで、いつもより早く鐘を鳴らして、シロを困らせてやることにしました。

シロが手紙を届けて庄屋さんの返事を待っていると、鐘の音がゴォーンと聞こえました。驚いたシロは庄屋さんが手紙の包みを首に巻いてくれるのも待ちきれず、慌てて走りだしてしまいました。そして二つ目の鐘が…。田畑を越え、野を越え、丘を越え、和尚さんとの約束を守るためにシロは懸命に走ります。遅れを取り戻そうと近道をして、キケンな山道を走って行きます。三つ目、四つ目の鐘の音が聞こえます。シロは必死で走り続けます。…シロは六つ目の鐘が鳴り終わるまでに、無事に帰り着くことができるのでしょうか？



お問合せ・お申込みは…

とらまる人形劇団

一般財団法人とらまる人形劇研究所

〒712-8014 岡山県倉敷市連島中央1丁目11-7

TEL 086-486-1305 E-mail: puppet@toramaru.link

FAX 086-486-1306 <http://toramaru.link>

劇団員募集中！

詳細はHPで…



■上演の手引き

- ・会場に特別なステージは必要ありません。
- ・舞台には間口 5.4m × 奥行 4.5m × 高さ 2.7m 位のスペースが必要です。
- ・上演に必要な機材はすべて持ち込みます。
- ・電気の容量は 20A (アンペア) 程必要です。
- ・上演効果をあげるため、暗幕をご用意下さい。
- ・上演時間は約 50 分で、準備に 90 分、片付けに 60 分程度かかります。
- ・1 回の公演定員は 200 名までが適当です。
- ・上演料は観客数、距離によって異なりますので、お問い合わせ下さい。
- ・ご予約はお早めに……。

■とらまる人形劇団とは…

2003 年からの 10 年間、香川県東かがわ市にあった日本で唯一の人形劇学校「パペットアーク」。この学校は財団法人とらまる人形劇研究所によって運営され、様々な取り組みを行ってきました。「とらまる人形劇団」はその人形劇学校の卒業生によって 2005 年に財団附属の専門人形劇団として旗揚げし、2013 年 4 月から岡山県倉敷市に拠点を移しました。今年で結成 18 年目を迎えます。人形劇表現の追求と、地域に根ざした活動を目指す「とらまる人形劇団」に、どうぞご期待下さい。

とらまる人形劇団 検索



上演や製作の様子は HP と SNS にて随時更新中！ぜひご覧ください!!!